

令和5年度第2回青森市民図書館協議会会議概要

- 1 日時 令和6年2月27日(火) 14時00分～15時30分
- 2 場所 青森市民図書館8階会議室2
- 3 出席委員 大賀重樹 会長、長尾亜希子 委員、木村紗耶香 委員、
鳴海一成 委員、寺山千晴 委員、中園裕 委員、
手塚理香子 委員、稲見宗久 委員（8名）
- 4 欠席委員 伊藤理子 副会長、安保静子 委員（2名）
- 5 事務局出席職員 館長 村上泰子、室長 工藤大輔、主幹 福島貴子、
主幹 成田恵悦、主任司書 佐々木久子
- 6 傍聴者 なし
- 7 次第
 - (1) 開会
 - (2) 報告事項 令和6年度の青森市民図書館運営について
 - (3) その他
 - (4) 閉会
- 8 主な質疑応答、意見等
《事務局》

子どもと読書、本との関りについて、実践していることや感じていることをお聞きしたい。

《委員》
 - ・中学校では10分程の時間で朝読書を実施しているところが多い。
 - ・本校では、子ども達におすすめ本のPOPを作ってもらい、教室の前に貼っている。
また、子ども達が作ったPOPの中から図書室担当の先生が選んだものを図書室に貼るなどし、図書室の利用促進を図っている。
 - ・本校生徒も、図書室に来る生徒が少ない。
図書よりは新聞を読む方に寄っていて、アーカイブの新聞やWEBを読んでいる。
 - ・保育園に市民図書館の方に来てもらい、年齢に合わせておはなし会をしてもらっている。
子ども達は大喜びです。
 - ・市民図書館の6階に、ここで実習した生徒さんが書いたお薦め本の紹介がある。
小中学生の手書で、それがすごく響いたので、子ども目線で紹介するのもいいと感じた。
 - ・おはなし会が好きで参加したりしているが、子ども達が騒いでもいいような環境で、お膝にだっこでも、パタパタしながらも聞いているというのが、親も子どもものびのびしていた。
絵本の場面が変わるところで、猫が「ニャー」となった時、子どもも「ニャー」と言って反応するという、そういう楽しみも絵本ならではの良いところだと感じた。

・読書習慣が全然ない子どもなど、低学年の子どもには読み聞かせの時間を作って、読書に触れさせてから、学習指導に入ったりしている。

動画を見ている子どもは、少し聞き流している感じを受ける。

あおりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』で優秀賞を取った生徒に応募のきっかけを聞いたところ、学校で朝読書をし、先生に書いてみたらと言われて書いたものが優秀賞となったと聞いた。そういうことが凄く大切だと思った。

・大学生は、レポートを書くときにネットで調べている。

逆に、地域のお年寄り等々は、アナログ的な思想が残っているので、ネットも使えるけれど、新聞、本を使う方が多い。

・学生は、基本的にレポートを書くときにネットで調べているが、ネットも本当に調べたいことがぱっと出てくる訳ではないんです。

何か検索すると、もう何百とか何千とか何万と出てきて本当に自分の調べたいことは実はなかなか直ぐには見つからないものもあるので、本学の図書館にもこういう本もあるという話をし、本で調べる必要性を話している。

実習に行く前や学内での模擬試験のなどの時に、市民図書館に調べに行ってみるという学生が結構いる。

活字というのは入りにくいところはあるけれど、本を読む大切さもこれから伝えていきたいし、そこにたどり着くまでにきっかけとして動画などがあるのは非常に良いと思う。

・今朝も、1年生に読み聞かせをしたのですが、虫たちの運動会とか、恐竜は喧嘩したなどでも、本をめくる時に間がある。それは、アナログにしかないと思いますし、本をめくった時に、ついつい声を出してしまう。

そういうのも読み手としては味わいがあって面白いと思う。

あとは、はらぺこあおむしなど英語の絵本なんかも読むと、すごく楽しいと思うので、そういう楽しさを気づかせるような仕掛けを作っていかなければと思う。

《事務局》

今後の参考にします。

ありがとうございました。

《議長》

事務局から、意見や感じていることをお願いします。

《事務局》

・コロナ時は、おうちの人が出かけて本を借りていたが、子どもと一緒に家族連れで本を借りに来る人が増えてきた。お母さんが選んで読むのもいいけれど、せっかく図書館に来ているので、自分の好きな本を選ぶという日常を少し増やしていただければと思う。

・学校支援で調べ学習があり、百科事典の使い方の申し込みがあるのですが、ポプラディアという小学生向けの総合百科事典の新版が11月に出て、鬼滅の刃なども入っていて、それを見ていると子ども達も自分たちで好きなものを調べていく。とても楽しそうにやっていて、アナログで、百科事典を引くことは嫌いではないと思う。

・高校生の本離れが進んでいるということで、歴史や古典などは漫画で見ても勉強になるので、忙しいかもしれないが図書館に来てもらいたいと思う。

・大人の話で言うと、図書館利用者は年齢層が上との感じがある。

夕方になると高校生などが来てくれるが、テスト対策で勉強しているふうで、少しでも読んでもらえればと思う。

・国語辞典を引くときには、広辞苑は駄目なんです。日本国語大辞典を引くのがいいんです。これ面白いです。そういう辞典を引く癖がついて、特に青森県に住んでいると、日本国語大辞典を引く面白さがあります。

方言というのがあります。一つの小見出し、ずっと後ろの方に行くと方言というのがあり、青森がでできます。日本語の一般的な意味と違う意味が青森にあるというのが出てきて、それでいろいろなことが分かる。

辞書を引くと、自分の目当ての字を、まず探すのですが、その隣や、隣の隣を見ていくと、こんなこともあるんだ、あんなこともあるんだという面白さがある。

一つのことに対して一つの答えしか知識が得られないけれど、辞書を引くということをやっていると、一つのことを調べると三つも四つもいろんなことが分かったりするので、辞書を引くという癖を子供たちに付けてもらいたいです。

《議長》

次に、委員の皆さまから日頃気付いていること、学校図書館、市民図書館以外の部分で
ご意見等ありますか。

《委員》

・以前ここで話したことがあるのですが、辞書を引く機会を子供たちに、先生方はぜひ義務付けて続けてやっていただきたいです。今まで気付かなかったということに気づく。気づきの知識というのがアナログの資料にはあります。

・図書館のサービスは、本の貸し借りだけではないという事例として。

紙芝居ですが、本格的に流行ったのは半世紀ぐらいしか歴史がないです。

もっと昔からやっていると思いますけれど、本格的に流行ったのは半世紀。

この資料にある保坂岩吉さんという方は、もう紙芝居屋の中では非常に有名な、子ども達思いの教育学者で、三八上北、八戸の年配の方で知らない人はいないほど有名な方です。

私も講演でこの方の写真を見せたところ、年配のかたは大喜びで、冥土の土産ができた
と、喜んだほど素晴らしい方です。

紙芝居はこれから使えると思います。大型絵本、見直していただきたい。

小学校中学校高校の先生いらっしゃいますので、ぜひ紙芝居にもう一度光を当てていただければなと思います。